

第 20 回 最上川水系流域委員会 議事概要

日時：平成 28 年 2 月 8 日（月）13:55～15:35

場所：山形県自治会館 会議室 401 号

- ：委員からの質問・意見
- ：事務局からの説明・回答

議事 1：「最上川水系河川整備計画（大臣管理区間）の進捗状況」

- 樹木伐採後の管理として、自治体や地元住民に有効利用してもらって再繁茂対策としているような事例はないか。
- 樹木伐採を、定期的に行うことで良好な環境が保たれている。
特に環境整備事業等で整備した箇所では、高水敷を地域の方々に管理してもらうことで、再繁茂が抑制されている。
- 最上川は野鳥などにとって貴重な環境である。韓国などに事例があるが、積極的に樹木を残して動植物の生息環境を維持するような取り組みもあったらおもしろい。
- 樹木を残すのもいいが、ニセアカシア（ハリエンジュ）は繁殖力が強いため、定期的に伐採して欲しい。
- 治水、環境の両面から検討し、鳥類の専門家などの意見を聞きながら、樹木伐採を行っていく。
- 河川協力団体と協力し、伐採必要箇所の調査など、河川管理についての役割分担ができてくれば、業務の省力化が図れるのではないか。河川協力団体との連携や育成に努めて欲しい。
- ダムなどの洪水調節効果を示す資料等は、ダム効果をより多くの住民に知ってもらうために、大切なものである。

議事 2：「最上川水系河川整備計画（知事管理区間）の取り組み状況について」

- 一般への情報提供にあたり、県と国とで情報のやりとりはあるのか。国のホームページから県にリンクなどは貼られているか。
昨今は、情報提供を行っている HP が数多く存在し、どこを見ればいいのか迷うこともあるため、横の連携を図って欲しい。
- 国から県及び、県から国に情報（データ）の共有は行っており、HP も相互にリンクをしている。
- 避難準備情報などを発信するエリア単位が、現在のものでは大きすぎる。最終的に情報を受け取る側の単位は町内会であり、現在の発信単位では、避難の必要な町内会と必要のない町内会が混在しており、本当に対象となる町内会まで明示して欲しい。地図表示のメッシュを小さくしても、受け手側で危険度を判断するのでは見落としも出かねないので、市町村と連携して、きめ細やかな情報を出す工夫をして欲しい。

- 国や県から発信した情報を受けて避難に関する情報を発信するのは市町村であるが、その判断基準を明確にし、情報交換を密にすることで正確な情報を提供していきたい。
- 平成 27 年 9 月豪雨で赤倉地区の避難指示では、スムーズに避難が行われたのか。対象となる町民全 80 人が避難したのか。
- 赤倉地区の場合は、何時間も前から現地に県の連絡員を派遣し情報を伝えたことで、避難はスムーズに行われ、全員避難することができた。
- 山形県では、タイムラインの整備は済んでいるのか。また、タイムライン作成後に、どうやって活用していくのか。
- 山形県では、危機管理部を中心に各部局が連携して作成中。ただし、市町村向けではなく、各災害毎のタイムラインとしている。
- 最上川沿川（直轄管理区間）の市町村については、全 30 市町村中 29 市町村でタイムラインを作成済み。残る金山町のみ平成 28 年 3 月末までに作成予定。
作成後は、各自治体の防災計画に反映させることで考えている。また、災害後に適宜、内容を改善していく予定。
- 防災教育に関して、山形県内でも試行する予定はあるのか。
- 新庄河川事務所管内では、真室川水害から 40 年にあたる今年に、当時を知る人達を招いて、地元の小学校で防災教育のカリキュラムを 1 年間組んでもらった。その他は、従来型の出前講座を行っているのみ。
今年の学習指導要領の改定にて防災教育が位置づけられることから、東北地方整備局では、仙台及び岩手河川国道事務所での取り組みを先行事例として、防災教育のモデルを平成 28 年度に検討することとしている。
- 国と県の河川整備計画を見ても、森林保全の概念が一言もなく、物足りない。
- 河川整備の計画としては、河川整備基本方針という長期計画があり、これには定性的な表現ではあるが、流域一環で水源地も含めた整備を進めていくことが記載されている。河川整備計画は、その内の約 30 年間の河川事業について記載したものであり、河川の仕事として水源地の保全までは記載出来ないのが現状である。
今回の委員会のような場で意見や問題提起をしていただいたことを踏まえ、どんな取り組みができるか考えていきたい。

その他：「最近の河川整備の動向について」

- 危機管理型ハード対策の天端保護と堤防裏法尻保護の場所について、選定基準はどうなっているのか。
- 直近 5 ヶ年程度で堤防整備を行う箇所は除外し、それ以降、整備時期が遅れる箇所について、整備計画流量が堤防天端を越える区間を優先的に選定している。